

# 結びの家

設計者／徳井正樹建築研究室  
施工者／株式会社津久井工務店

## 設計趣旨 CONCEPT

「家族に対する愛情と慈しみを、そのまま形にしたい」。これが私に課せられた命題です。建主夫妻の言葉だけでなく、駆け廻る3人の子供達の表情や声に包まれた豊かな家族時間。これを無限に包容できる家への試みが「山で大黒柱を買い付ける」でした。素人の建主を山に連れ出し大樹を選んで大黒柱にする。大きなリスクを伴う選択肢でしたが、残った丸太は天井、床、造作材に！この体験は必ず「家族を束ねる家づくりの幹」となると判断。提案は快諾され、家づくりは大海に漕ぎ出す事になりました。建主、森林主、製材所、工務店など、様々な役者が必要な試みは、設計者が仕掛けなければ誰も手を出すことは無いでしょう。しかし、大仕掛けはプロ側関係者に「類い稀な共同作戦」を意識、共有する事となりました。その流れに子供達も巻き込み「自分たちの家を自分たちでつくる」感をもった建主家族は現場に日参します。当然その思いは職人に伝わって希有な一体感が現場を包んで行きました。結果、家族の愛情は山と森と現場を繋ぎます。外見は奢らざるも豊かな家族の形が「家」とまとまりました。

## 平面図



2F



1F

## 講評 REVIEW

「家族に対する愛情と慈しみを、そのまま形にしたい」との施主の思いが詰まったこの家は大黒柱になる高さ40m樹齢百年の杉を施主家族が山に入り、選ぶことから始まっています。その実現の為に施主、森林主、製材所、設計者、工務店との共同作戦を通して得られた一体感と「自分たちの家は自分たちでつくる」との施主の想いが凝縮された家となっています。その大黒柱が支える吹抜けリビングの床、天井には買い付け丸太から製材した無垢の杉材が使われ、書斎机、子供机など家族それぞれの使う机もその大黒柱の木からつくられています。家族の時間を大切に空間は豊富な木材、土壁、瓦など本物の材料と細やかな設計、施工の工夫により快適なものとなっています。

新興住宅地のなかでの落ち着いた和の佇まい、背の低い筐で広い敷地間口を柔らかく開くことで地域に伸びやかさを生み出し、新しい街並形成を担っています。家づくりの幸せなストーリーから生まれた素敵な住まいとなっています。

